

興産信用金庫 大田市場営業部

100th

1924-2024

Anniversary



未来へ、今日も明日も。

興産信用金庫

100th Anniversary

大田市場の未来に向けて 変わらぬ協働を願う

大田市場営業部設立100周年、心よりお祝い申し上げます。

これまで大田市場営業部には市場の現場に最も近いレベルで、信用金庫ならではの細やかな業務をお引き受けいただけてきました。長きに渡り、中央卸売市場に関わってきた企業や組合、業者等に対して惜しみないご支援をいただけてきたこと、すべての市場関係者を代表して改めて感謝いたします。

今、時代は急速に進み、青果取引や流通のあり方も変わろうとしています。国内最大の青果物の流通拠点としての役割としてはもちろん、「情報ネットワークの基幹としての大田市場」を築くべき時がきています。物流や情報の流れの変化とともに、市場経済もまた変革が迫られています。

大田市場営業部が歩んできた100年は、市場との協働の証でもあります。「大田市場」を名に冠する営業部としてさらなる発展と繁栄を願うとともに、市場の未来のために一層のご尽力とご協力をお願いしたい所存です。

令和6年4月

一般社団法人大田市場協会 会長
東京青果株式会社 代表取締役会長

川田 一光



市場は日本経済の源 支援する責務を全う

この度、興産信用金庫大田市場営業部が100周年を迎え、ひとえに市場内の卸売業、仲卸業、小売業の皆さまをはじめ、多くの市場関係者の方々からのご支援の賜物と、心より厚く御礼を申し上げます。

仲卸業者の有志により創設された「保証責任神田市場信用組合」は昭和26年の信用金庫法の制定と合わせて「神田信用金庫」へ、平成12年6月に同じ神田を本店とする興産信用金庫と合併し、「大田市場営業部」へ引き継がれ現在に至ります。

合併当初は、独自の代受・代払決済の仕組みに戸惑いながらも、市場関係者の方々のご協力を得ながら、店舗運営に邁進してまいりました。

現在では市場内唯一の金融機関であり、その誇りと責任の重さを実感しています。当金庫において大田市場営業部は預金量トップの店舗であり、日本経済の源となる市場の発展に向け、金融等を通じてこれからもご支援できるよう、さらに努力を重ねてまいります。

今後とも宜しく願いたします。

令和6年4月

興産信用金庫 理事長

岡田 幸生



大田市場営業部の成り立ち

100th Anniversary

1924

青果市場専属の金融機関 保証責任神田市場信用組合 の成立

大田市場営業部は、神田青果市場(後の大田市場)を母体として創設された神田信用金庫に起源を発します。

神田信用金庫の前身である「保証責任神田市場信用組合」が創設されたのは1924(大正13)年5月16日、関東大震災の翌年のことでした。大震災によって壊滅的な被害を受けた神田青果市場を復興させ、青果業者を救済するために、仲卸売業者を中心とする有志が集まり、協同組織による相互扶助、共存共栄の理念の下に同組合が設立されました。

神田青果市場にとって初となる、市場組合員を経営基盤とする金融機関として立ち上がった同組合。当初の業務は貯蓄組合的な性格が強く、大震災後の金融恐慌での不安な情勢から組合員たちの「手元の現金や資産を保全してほしい」という要望に沿うものでした。組合員数は350名余り、業域組合としては最大規模の信用組合でした。

生活必需品である青果物を取り扱う神田青果市場は、東京の人口膨張、輸送手段の発達、農業の技術進歩とその環境変化などさまざまな要因によって、「青果物の集散地市場」として次第に取扱量を増加させ発展していきます。1928(昭和3)年に市場は東京市神田区山本町(現在の外神田4丁目、秋葉原駅北西部)に移転。同組合も市場内に事務所を移転し、市場唯一の生え抜きの金融機関へと安定的に成長していくこととなります。

戦中戦後の苦難乗り越え 神田信用金庫が発足

1929(昭和4)年、ウォール街の株式市場暴落を皮切りに世界的な経済パニックが起こると、日本も深刻な金融恐慌にみまわれます。この不況が引き金となって、1931(昭和6)年の満州事変勃発、1937(昭和12)年の日中戦争、そして1945(昭和20)年の第二次世界大戦の終戦まで、日本は十五年戦争といわれる長期戦争時代を進むことになり、政治も社会も大混乱に陥りました。

戦時中、青果物の販売は徐々に自由取引を禁じられ、信用組合も軍事政府の統制下になっていきました。価格も市場の機構も政府の統制下に再編成されたことによって、仲買業は転業・廃業へと追い込まれ、それらを軸として発達してきた神田市場信用利用組合も経営基盤を失い、苦境に立たされます。当時の神田青果市場は、店舗の看板が取り外され、事務所も取り払われて、「ガラ空きようになった」といいます。役職員も次々と徴用されていき、組合は深刻な経営難に陥りました。

1944(昭和19)年、組合は生き残りをかけて大成信用組合との合併に踏み切ります。2代目組合長である西村吉兵衛の養嗣子(家督相続人となる養子)だった西村禧は、大成信用組合の常任理事となり、組合は「外神田支所」として事業を継続していきました。

ようやく終戦を迎えた日本。戦後間もなくは、市場に戻ってきた卸売人や仲買人、小売業者などが、荒廃した市場を復活させようと私費を投じて市場施設の改善に努めたといえます。次第に市場に自由が戻り経済も活発になってくると同時に、組合もまた復活に向けて

動き出しました。西村禧は西村吉兵衛の励ましを受けながら奔走、多くの人脈から厚意と支援を受け、1948(昭和23)年に組合は大成信用組合と分離、「神田市場信用購買利用組合」として再出発を果たします。本来の形に戻った組合は、取引が活発化する市場と足並みを揃えるかのように預金量を急速に増大させ、経営を好転させていきました。

1951(昭和26)年、信用金庫法に基づき、組合は「神田信用金庫」へと改組。創業以来の青果業者を対象とした「業種別金融機関」から、広く地域や中小企業との取引を行う「地域金融機関」へ、新たな時代を築いていくこととなります。

地域とともに そして、市場とともに

1989(平成元年)年、秋葉原にあった神田市場は、東京都大田区東海に移転。五反田にあった荏原市場と荏

原市場の蒲田分場と統合され、「大田市場」の青果部として新たに業務を始めました。また、平和島にあった大森市場と築地市場の一部業者を統合して水産部に。また城南地区に点在していた9つの民営地方市場を統合して花き部も設立されました。約40万平方メートルの広大な敷地を有し、青果部・花き部に関しては日本一の取扱規模を誇る総合市場へと変貌を遂げました。

「地域金融機関」となっても創立時の志はそのままに、神田信用金庫は同年、大田市場営業部を新設。これが現在まで続く「大田市場営業部」の始まりです。

2000(平成12)年6月5日、経営状況が悪化した神田信用金庫は同じく千代田区に本店を置く興産信用金庫によって救済合併され、大田市場営業部も新生興産信用金庫の傘下に入りました。

2024(令和6)年5月16日、大田市場営業部は「保証責任神田市場信用組合」の誕生から100年の節目を迎えます。大田市場営業部の100年は、まさに市場と命運をともにし、寄り添ってきた100年でした。誕生からこれまで、市場と共に進んできた大田市場営業部は、市場の発展と未来を願いながら、これからもともに歩んでいくことでしょう。



西村吉兵衛
の経歴
(1873-1957)

「保証責任神田市場信用利用組合」の第2代組合長である西村吉兵衛は、実質上の創設者と言われる人物です。1902(明治35)年、吉兵衛は神田市場に出入りする青少年に教育事業を行うために「実業補習夜学会」を結成、熱心な教育にあたり、この共教会が神田市場信用組合の前身となりました。50代、東京市会議員時代には「中央卸売市場法」を成立させ、全国の青果業界の指導的な立場にも立ちました。志を決めると、それに向かって突っ走る純粋な熱血漢タイプだったという吉兵衛。戦中戦後の混乱を乗り越え、その生涯を閉じるまで青果業界と信用組合のために全身全霊を傾けました。

略歴

明治6年2月20日
大正11年～昭和3年
昭和3年

昭和5年9月19日
昭和11年
昭和15年8月3日

生誕
東京市会議員
神田市場組合頭取
神田青果市場運送株式会社設立
保証責任神田市場信用利用組合第2代組合長就任
東印中央青果卸売株式会社創立社長就任
神田市場三会社同東印東京青果株式会社設立
初代社長

2024

1924

関東大震災

1923 - 大正12年 江戸時代より300年以上続いてきた神田青果市場(東京府東京市神田区須田町[現・東京都千代田区神田須田町])が、関東大震災で壊滅する。

1924 - 大正13年 5月16日「保証責任神田市場信用組合」を設立

初代組合長に村木喜助 就任
店舗を神田青果市場内に移転
名称を「保証責任神田市場信用利用組合」に変更
神田青果市場(神田区山本町[現在の外神田4丁目、秋葉原駅の北西部])に移転、開場。
業務開始

世界恐慌

1929 - 昭和4年
1930 - 昭和5年 第2代組合長に西村吉兵衛 就任

満州事変勃発

1931 - 昭和6年
1935 - 昭和10年 東京市中央卸売市場神田分場開設

日中戦争

1937 - 昭和12年

第二次世界大戦

1939 - 昭和14年 創立15周年

1940 - 昭和15年 商工省「生鮮食料品ノ配給及価格ノ統制ニ関スル件」発表
中央卸売市場は全面統制となる

1944 - 昭和19年 大成信用組合と合併、神田支所となる

第二次世界大戦終戦

1945 - 昭和20年 GHQ「生鮮食料品ノ集荷配給ニ関スル覚書」発表

1947 - 昭和22年 果実の統制撤廃

1948 - 昭和23年 大成信用組合と分離、「神田市場信用購買利用組合」となる

1949 - 昭和24年 第3代組合長に西村禧 就任
蔬菜(そさい)の統制撤廃(配給統制規則の全面廃止)

1950 - 昭和25年 中小企業等協同組合法により「神田市場信用組合」に改組

1951 - 昭和26年 信用金庫法により「神田信用金庫」に改組

1952 - 昭和27年 秋葉原出張所を開設

1954 - 昭和29年 創立30周年

末広町支店開店
1961 - 昭和36年 秋葉原出張所が支店昇格(旧秋葉原支店)

1963 - 昭和38年 新宿支店開店
第4代理事長に深見浜助 就任

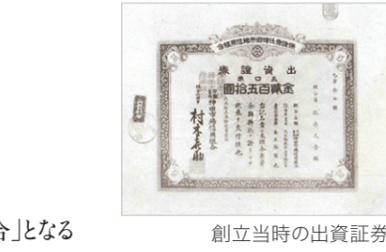
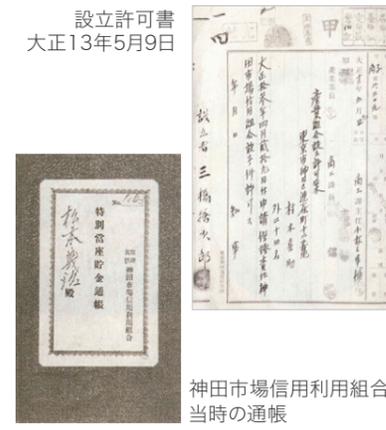
東京オリンピック開催

1964 - 昭和39年 創立40周年

1965 - 昭和40年 旧秋葉原支店を末広町支店と統合、「秋葉原支店」に

1966 - 昭和41年 本店(市場内)改装移転

1967 - 昭和42年 中野支店開店



1971 - 昭和46年 第5代理事長に清水好二郎 就任

1973 - 昭和48年 関町支店開店

1974 - 昭和49年 創立50周年

1976 - 昭和51年 飯田橋支店開店

1978 - 昭和53年 早稲田支店開店

1980 - 昭和55年 市ヶ谷支店開店

1983 - 昭和58年 阿佐ヶ谷支店開店

1984 - 昭和59年 創立60周年

1985 - 昭和60年 秋葉原駅前出張所開設

1987 - 昭和62年 高円寺支店開設

1989 - 平成1年 大田市場営業部開設

秋葉原支店を本店に昇格
5月 神田市場(秋葉原)、荏原市場(五反田)、荏原市場蒲田分場を統合し、大田市場(東京都大田区東海)にて青果部業務開始

1990 - 平成2年 神田商工信用金庫と合併

バブル崩壊

1992 - 平成4年 第6代理事長に和田昇 就任

1993 - 平成5年 秋葉原支店移転、新装開店

1994 - 平成6年 創立70周年

ITバブル崩壊

1998 - 平成10年 第7代理事長に蜂谷努 就任

2000 - 平成12年 興産信用金庫と合併

合併時 第6代理事長 石原静夫
3月 せいか信用組合、
7月 東京食品信用組合から一部事業譲受

2003 - 平成15年 興産信用金庫 創立80周年

2006 - 平成18年 第7代理事長に前川秀樹 就任

2013 - 平成25年 興産信用金庫 創立90周年

2014 - 平成26年 第8代理事長に加藤木克 就任

2020 - 令和2年 第9代理事長に岡田幸生 就任

2023 - 令和5年 3月23日 興産信用金庫 創立100周年

2024 - 令和6年 5月16日 大田市場営業部 創立100周年



神田青果市場イメージ 作画:村上健



昭和59年頃の本店



創立当時の看板



大田市場営業部

※ の記述は 青果市場の動き

100th

興産信用金庫 大田市場営業部

〒143-0001 東京都大田区東海3-2-1

TEL 03-5492-3411(代)